



2019年 1月11日  
第79号

# JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集情報部  
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## 「検修職場の将来を見据えた人材育成・技術継承」最後の砦は「人」 安全・ゆとり・働きがいの創出に向けてに関する申し入れ

横地申第8号

横地申 第08号  
2019年 1月11日

東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社  
横浜支社長 廣川隆殿

東日本旅客鉄道労働組合  
横浜地方本部  
執行委員長 助川一実

### 「検修職場の将来を見据えた人材育成・技術継承」最後の砦は「人」 安全・ゆとり・働きがいの創出に向けてに関する申し入れ

横浜地本は、「2018政策フォーラム」を開催し、車両メンテナンス職場から「人材育成・技術継承・技能伝承」が急務の課題として提言発表されました。

新系列車両の導入によりメンテナンス体制の効率化が進められていますが、「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」施策では「仕業検査・構内業務」が東日本運輸サービスに業務委託となり、検修社員が経験を積む場が減少しています。その中においてCBM「モニタリング保全」が可能となる新型車両E235系が横須賀線に導入になると発表されました。より効率的な保全体制は、経験を積んだ判断力が必要となり、鎌倉車両センター分会、国府津車両センター分会の組合員は、車両検修職場の将来に不安の声をあげています。

一方、国府津車両センター分会では、上野東京ライン開業以来、業務量が増加し現在の要員体制では、若手への教育・訓練が十分に行えない状況であり、メンテナンス職場の技術継承、技能伝承に不安の声も出されています。

「経験・技術力・感性」というものがあってモニタリング保全や新型車両の導入という施策が成功するものであり、そのためには「ベテランから若手への技術継承」「車両センターとしての本線に直結する業務の経験ができるフィールド」「将来を見据えた検修職のライフサイクル」を実現していくことが必要不可欠であると考えます。

従いまして、下記の通りに申し入れを行いますので、会社の誠意ある回答と真摯な議論を要請します。

記

1. ベテラン社員から若手社員への技術継承・技能伝承が充実したものにするため、また、スピード感ある改修工事等の施工を同時に実現させるために、各箇所適切な要員を配置すること。
2. 車両状態監視モニタリングの有効性を向上させるとともに、JR 本体社員の活躍フィールドを広げ、判断力を養うことができるよう、JR 本体の検修職場に「仕業検査・構内入換」の業務の一部を設けること。
3. 検修職の技術・技能を習得・向上させるために、現場での経験は8年程度を標準とする検修社員の育成プランを確立すること。
4. モニタリング保全導入に向けて、社員への施策説明及び、教育・訓練は十分な時間をかけること。

以上

鉄道の人材育成・技術継承は重要！  
最後の砦は「人」！

